



SSW から学ぶ

「スクールソーシャルワーカー (SSW)」という言葉聞いたことがある人は多いかと思えます。SSWは、子供がよりよい生活をするために、社会福祉等の知識や技術を生かして、子供たちが置かれた環境を整え、支援していく仕事です。

SSWと似た言葉に「スクールカウンセラー (SC)」があります。SCは、カウンセリングなどを通して、子供の心のケアをしたり、話を聞いたりして本音を聞き出していく仕事です。子供に寄り添う点では同じですが、サポートの仕方が違ってきます。

帯中校区には、熊本市教育委員会から漆野 (うるしの) よう子さんが SSW として配置されています。帯西でも日頃から随分お世話になっていますので、昨日19日 (月) は、校内研修に講師として招き、全職員で子供の支援の在り方を学びました。子供たちを取り巻く環境は様々ですが、その環境の改善の仕方や子供たちの背景の見つめ方などのお話を聴くことができ、とても貴重な時間となりました。特に、表面化している「現象」だけに捉われることなく、想いや感情、背景など「表面にみえていないもの」をしっかりとみて、聴いて、理解する姿勢をもつことが大切だということを共通理解することができ、また一つ本校職員の力になったと思えます。

さらに①子供たちの行動を認める ②子供たちへの温かい眼差し ③成果や結果を承認するのではなく、頑張りを承認する ことが子供たちとの関係性において大切だということを学びました。これは本校が昨年度から継続して取り組んでいることなので、自信をもってこれからも共通実践に繋げようと思いました。



こどもの目の日

6月10日は、何の日かご存じですか?実は「こどもの目の日」だそうです。記念日を制定したのは、眼科のお医者さんなどで作る団体です。「6歳までに視力1.0」を目標にしているので「6月10日」にしたそうです。

生まれたばかりの赤ちゃんは、視力が十分ではなく、順調にいくと6歳頃には、視力が1.0になるそうです。しかし、小学生の35%以上、中学生の約60%、高校生の約65%が視力1.0未満という調査結果があります。年齢が上がるにつれて、視力が低下する人が増えてきていることが分かります。視力が低い、つまり「近視」は、遺伝と生活環境が関係して起こります。特に最近では、ゲームやパソコン、スマホといった電子機器が影響しています。これらを全く使わないのは、難しいことなので、画面から30cm以上は目を離す、30分に一回は遠くを見て目を休める、目が乾かないように瞬きをする、などの工夫はできるはずです。さらに、視力改善のために、屋外の遊びやスポーツにも注目されています。小学生高学年を対象とした調査では、屋外の活動時間の長さによって視力に差があったそうです。台湾の小学校で、1日2時間の外遊びに取り組んだところ、近視になる子供が半分になったそうです。

時々目は大切にすることを意識をもって、視力を守っていききたいものです。